

令和4年（2022年）11月7日

西宮市議会議長 坂上 明 様

教育こども常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和4年（2022年）10月19日（水）
午前10時45分から午後0時30分まで

■視察委員 委員長 一色 風子
副委員長 大迫 純司郎
委員 佐藤 みち子
〃 篠原 正寛
〃 多田 裕
〃 田中正剛
〃 宮本 けいこ

■欠席委員 委員 大川原成彦

■視察先 夙川幼稚園 西宮市松ヶ丘町9番23号

■視察事項 ・小規模保育所との連携について
・保育所整備を必要としない待機児童対策の受け皿について

■視察概要

本年度委員会の施策研究テーマのうち「保育所整備の将来像と今後求められる保育所のあり方について」を研究・協議を始めています。

今後出生数が減少する中でいつかは保育所が過大供給になる可能性があるという将来を見据えつつ、現在ある保育所待機児童という大きな市の課題を解消しなければなりません。

保育所整備に関しては様々な手法がありますが、こどもの生活の場となる保育の質も担保しつつ、保育を必要とする家庭に対して受け皿を拡大することが一番の目的となります。その中で既存施設を活用し新たな保育所整備に頼らない手法として、西宮市が新たに始めた特区小規模保育所との連携公立幼稚園事業を見学させていただき、今後の施策研究を進めるための判断材料とするために訪問させていただきました。

■意見・感想

夙川幼稚園では、降園する子どもたちの様子と、そこから分かれてお預かりの教室に入ってお弁当を食べる子どもたちの様子を見学させていただき、新たに始まった事業に関して園長からご説明を頂きました。

始まったばかりの事業ということもあり、小規模保育所から転園した4歳児の園児4名が在籍している状況で、過渡期中模索しながら運営されている様子がうかがえましたが、以下に書かせていただいた通り多くの課題があるように感じました。

- ・当初の受け入れ数は1園あたり40名ということであったが、幼稚園の空き教室が1つしかないことなど事務局と現場との乖離があるのではないかと

- ・こどもの数が少なく、配置されている職員の数が多いので手厚く保育がなされることは想像できるが、せっかくの人材をうまく活用できていないのではないかと

- ・お預かりの子ども数が少なく、平日だけでなく長期休み中の集団遊びなどの保育の内容がどのようになっているのか？

現在公立幼稚園の連携事業は特区型からの連携のみで近隣の認可外保育所などからの連携はできない状況になっています。今後の入園希望の様子にもよりますが柔軟な対応ができれば課題となる部分についても一定解消することができるのではないかと考えます。

■視察風景

(夙川幼稚園)





以上